

## 雪&路面凍結による転倒事故に備えよう！

- 東京で、いつ雪が降り、どの程度積もるのか誰にも分かりません。ただし、雪に対する準備はできます。
- 1953年から68年間の降雪の深さ（累計）をみると、東京でも数年ごとに、1月と2月にはある程度の深さの雪が積もります。
- 平成30年1月の大雪では、東京も最深23cm積もりました。
- このため、平成29年度は、積雪および残雪による路面凍結に起因した転倒事故や自転車転倒事故が、前年度比60件を超えて増加しました。
- **週間予報**で、東京に**積雪予報**が出た時に、シルバー人材センター事務局として、どのような対応をするのか、**会員向け**にまたは**発注者向け**にどのような情報を発信するのか、**ご検討・ご準備はされているでしょうか？**

分析区分	平成30年1月の大雪に係る事故発生状況	再発防止の事例
降雪日と事故日との関係	雪が降った1月22日から23日の2日間に起きた転倒事故は全体の <b>2割に満たなかった</b> 。 1月24日以降に起きた転倒事故が <b>8割を超えていた</b> 。	残雪の凍結で滑る転倒が多発 残雪がある箇所は、晴れていても要注意
交通手段	雪が降り積もっているにもかかわらず、 <b>自転車を使用したこと</b> に起因する転倒事故は <b>約2割</b> にのぼった。	自転車の利用を控える 危険個所では一旦降りて歩く
起因の特徴	雪そのものに滑るというよりも、残雪による <b>路面凍結で滑ったり、踏み外したり</b> する事故が多かった。	路面凍結に対する危機意識が低い！ 朝晩、日かげ、残雪箇所に対する注意喚起
事故区分	就業中の転倒事故は約3分の1で、残り <b>約3分の2は経路途中の転倒事故</b> であった。	通勤経路途中は、雪に加えて路面凍結に要注意
履き物&滑り止め具	積雪にもかかわらず、 <b>靴底が摩耗している靴</b> で歩行した転倒事故があった。 雪の中、外出するも、「アイゼン滑止め」や「滑止めスパイク」等の <b>滑り止め具の不使用</b>	履き物を点検 滑り止め具を装着 残雪の無い、凍結の無い箇所を選んで歩行